

# 12月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

28年12月のDI値は、8指標中5指標が上昇。特に「景況」は2桁の大幅な上昇となった。「資金繰り」「雇用人員」は下落。「設備操業度」においては横這いであった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

年末商戦期ということもあり、需要が増加する等前月に比べて明るい話題が多く寄せられた。DI値においても、県内中小企業の景況は大きく好転し、長い足踏み状態をひとまず脱したかのように見える。

一方、時代の流れとともに変化する消費者動向による需要減に悩む声に加えて、深刻の度を増す労働力不足、円安の影響で原材料価格や原油価格の高騰に起因する収益環境悪化が懸念されるとの声も聞かれた。

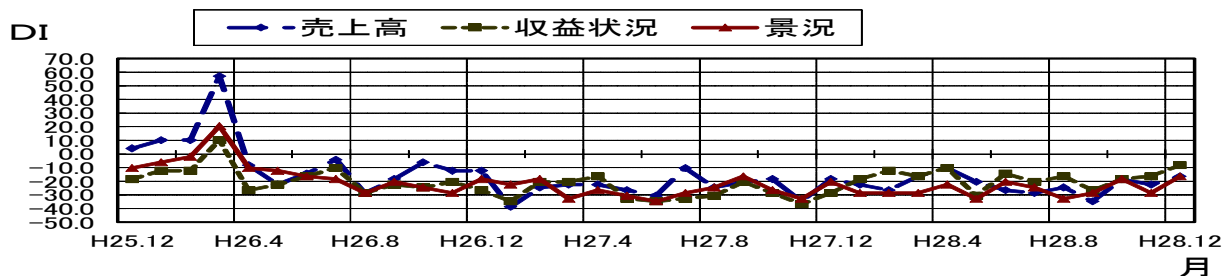
今後、トランプ政権の米国第一主義を前面に掲げた政策運営をはじめ、勢いづく円安・ドル高、依然継続する海外情勢の不安定な状況等、不確実性が大きく国内外ともに期待先行の面が否めない。県内中小企業においても、金融動向を含めて最注視していく必要がある。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H27 12月	H28 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	増減
景況	-20.4	-28.6	-28.6	-28.6	-22.4	-32.7	-20.4	-24.5	-32.7	-28.6	-18.4	-28.6	-16.3	12.3
売上高	-18.4	-22.4	-26.5	-16.3	-10.2	-20.4	-26.5	-28.6	-24.5	-34.7	-18.4	-22.4	-16.3	6.1
収益状況	-28.6	-18.4	-12.2	-16.3	-10.2	-30.6	-14.3	-20.4	-16.3	-26.5	-18.4	-16.3	-8.2	8.1
販売価格	4.1	0.0	4.1	8.2	4.1	-10.2	-10.2	2.0	-8.2	-6.1	6.1	2.0	4.1	2.1
取引条件	-2.0	-2.0	-8.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	4.1	2.0	4.1	2.1
資金繰り	-8.2	-22.4	-12.2	-12.2	-8.2	-6.1	-10.2	-10.2	-10.2	-14.3	-6.1	-8.2	-12.2	-4.0
設備操業度	-11.1	-22.2	-27.8	-27.8	-22.2	-33.3	-11.1	-38.9	-33.3	-22.2	-5.6	-11.1	-11.1	0.0
雇用人員	-14.3	-16.3	-22.4	-24.5	-24.5	-18.4	-20.4	-22.4	-16.3	-16.3	-16.3	-12.2	-16.3	-4.1

※ DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

### 前年同月比DIの推移



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・前年同月比では味噌の生産量、出荷量とも前年水準に戻ってきている。前月比でも出荷量は103%となり、売上高も増加した。一方、主原料の外国産米の価格は円安で高くなり、コスト高となっている。県内の御膳みその生産量及び出荷量は味噌全体のシェア30%を維持している。
2. 菓子・年末の天候も良い方に作用したのか、年末商戦については昨年に比べてやや好転したように感じられる。今、組合員企業では人手不足であり、人件費の高騰が避けられない状態が続いている。益々利益が圧迫され企業の永続が難しくなる。早く業態変化や新しいコンテンツ作りに取り組む事が必要不可欠である。

#### <木材・木製品>

3. 木材・原木丸太出材量は安定しており、価格もやや強含みの展開。取扱い金額も対前年比4%増となっている。又各製材所からの原木丸太手当ても旺盛な状況であり、荷動きが活発に推移し始めている。
4. 木材・売上高減少。収益状況悪化。近頃の不景気に拍車を掛けて、詐欺的行為な犯罪が多発しているとの報告があった。世の中が難しい時代になってきているが、来年は心機一転努力していきたい。
5. 製材・プレカット工場においては、住宅金利引き下げにより受注増。フル操業が続いている。

#### <印刷>

6. 印刷・先月に引き続き12月も売上高が減少する厳しい月となった。12月はクリスマス等のイベントが盛りだくさんあり、年末年始の休みを前に特需が期待されたが特に需要はなかったようである。
7. 印刷・前年同月比では、全般的に前年並みである。地元小売業とサービス業からの受注が若干上向いたように感じる。しかしながら、好転した或いは低調であるという中小企業がまだら模様存在する。全体を見渡すと前年並みというところだと考える。また、中央会・行政庁への要望事項として、地方の印刷業者は官公需関連の印刷物に依存するケースが多い。地元資本の商工業者からの発注が減り続ける中、官公需関連の適性価格での発注をお願いしたい。

## <窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・12月に入っても状況は変わらず、昨年同月と比べて出荷量は減少傾向である。現状では、出荷の増加を見込める要素がない。集約化やその他経費等の削減にも限界がある。いずれにせよ山間部では経営が成り立たない状況になりつつある。

## <鉄鋼・金属>

9. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はなく、弱含みに推移している。一部では、売上高の減少や設備操業度の低下も見受けられる。依然として景気回復感は薄く、今後の景気動向の好転が期待される。
10. ス テ ン レ ス・売上高不変。収益状況不変。国内の一部の大手企業においては設備投資の動きはあるが、全体的には大きな動きはない。海外情勢の不安定な状況も続いており、全体として良い材料の少ない先行き不透明な状況が継続している。

## <一般機器>

11. 機 械 金 属・売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化はみられない。米国発による急激な円安や株価の上昇の反面、実体経済は停滞気味であり将来に対する先行き不透明感が依然として強い。また、雇用情勢の改善により中小企業への人手不足が懸念される。

## 【非製造業】

### <卸売業>

12. 食 糧 卸・12月のもち米の売上高は対前年比減少。年々、食生活の変化を感じる。
13. 各種商品卸・全体では不変であったが、印刷業界は受注が大幅に減少し厳しい状況であった。大きな要因は、大手企業では全店一括発注し、地方の印刷業者に受注がない為チラシの需要が大幅に減少した事や中小企業ではコストに合わないとの理由で、チラシ作成をしなかった事、また家庭内プリンターの普及で年賀はがきも減少している等が要因として挙げられる。

### <小売業>

14. 織 維 卸・売上高減少。収益状況不変。景気動向指数などは概ね良いとされているが、業界では好材料がない。プロパーの占める率が減少して、ビジネスそのものがスポット的で製品サイクルが早まり、ゆとりが持てないように思われる。
15. ショッピングセンター・昨対比はスーパー100%（食品98%、衣料108%）、専門店101%であった。店舗全体では昨対比100%という結果であった。専門店では、引き続き食料品111%、飲食店が251%と好調を維持しており、客数が伸びている。装身具や文具品などの身の回り品の店舗は依然として売上に苦戦している。
16. プロパンガス・売上高減少。収益状況不変。メーカーによる体験フェアが実施されるので組合員企業に周知し、売上高増加に繋げていきたい。

17. 電気機器・全体的に買い換え需要中心の動きであり、まだまだ低迷状態である。一方LED照明に関しては、10月～12月までLED照明拡売キャンペーンを実施したのもあって、引き続き売上伸長である。

18. 畳小売業・12月の中頃には納品が終了し、一般の畳替え工事の需要も落ち着いてきた。年明けに講習会を開催するので、畳業界を元気にしていきたい。

#### <商店街>

19. 徳島市・12月は商店街・専門店街共にイベントを開催したのもあり、客足が伸びた。売上は対前年比やや増加。ただ、セールが早めに開催された分、売上に寄与したと思われる。

20. 阿南市・クリスマスイベントを実施したものの、売上高や業況に変化はなかった。

#### <サービス業>

21. 土木建築業・12月の業務量は落ち着いていたが、増加傾向にある。雇用人員を何名か増加させて業務を行っている。

22. 自動車整備・登録自動車（普通車）の新車登録は対前年比-2.8%、中古車は+8.3%、合計では0.3%の微減。軽自動車の新車登録は対前年比+3.9%、中古車-3.4%、合計では2.0%と微増であった。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録合計は対前年比+0.7%。全国的に自動車の保有台数が5年連続で過去最高を更新している。同じ車に長年乗り続けるユーザーが増加傾向にあるという。しかし、自動車の性能が向上し故障しにくくなったとはいえ、車検だけではなく、プロによる年1回の定期点検・整備の必要性をユーザーに周知し、業界の収益拡大に繋げていきたい。

23. 旅行業・年末年始の日並びが悪かった為、個人消費があまり伸びなかったようである。最近では団体旅行も少なく、業況は良いとは言えない。

#### <建設業>

24. 建設業・公共工事の発注が少なく、業況は悪化した。発注量が地域により温度差がある。

25. 解体業・公共解体工事、民間戸建、民間施設大型工事とも発注量が順調に推移している。

26. 鉄骨・鉄筋工事業・年末年始に休暇が入った為、いつもより多忙であった。

27. 板金工事業・仕事量は順調に推移している。

28. 電気工事業・新設住宅口数は272件で対前年比71.9%と大幅に減少した。

#### <運輸業>

29. 貨物運送業・一般貨物輸送は、取扱い業種により異なるが全般的に中旬より荷動きが増加。12月全体では昨年並みで推移している。一方、軽油単価は10月より上昇に転じており、OPECの減産、円安の要因で今月も対前月比約5円強の上昇。このままでは収益の低下が懸念される。

30. 貨物運送業・売上高は不変であったが、「減少」と答えた事業者も少なくない。本来ならば年末の繁忙期であるが、工場の年末の早めの休業などで輸送量が伸びなかったと思われる。また、輸送量はあっても繁忙期のため、帰り荷を取れずにすぐに地元に戻らなければならない等、ドライバー不足による非効率な運行があり、売上は上がっても利益が上がらない。